

第19回 ソフトボール競技実施要項

(下線は変更・追加箇所)

1. 競技種目

男子ソフトボールとする。

2. 競技規定

大会開催年度の(財)日本ソフトボール協会オフィシャル・ルール及び本大会申合せ事項による。

3. 出場資格

- (1) ブロックごとの出場枠を下記のとおりにする。北海道・東北1、関東2、北信越1、東海1、近畿1、中・四国3、九州2、開催地1、計 12 チーム以内になるものとする。但し、ブロック予選大会参加チーム数により、枠を変更できる。なお、開催地チームが予選大会において優勝又は準優勝の場合は、地元開催チームの権利を失うものとする。
- (2) 但し、優勝・準優勝チームが本大会に出場できない場合は、当該ブロックの協議により、代替チームが出場できるが、代替チームに関する責任は代替チームを選出した当該ブロックが全て負う。
- (3) 出場するチームは1チームで、当該ブロック内の他のチームから選手を2名以内で補強することができる。当該ブロック内で人数が満たされない場合は、隣接ブロックから加えても良い。ただし、この場合、隣接ブロック体育部長の許可を要する。
- (4) 最低参加チーム数は 12 チームとする。但し、12 チーム未満の場合は、本年度予選大会での各ブロック内のチーム数の多い順から 1 チームずつ推薦する。

4. チームの編成

- (1) 1 チームの編成は、監督を含む選手 20 名以内とする。
- (2) コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20 名の範囲内で登録しなければならない。
- (3) 監督の背番号は 30 番、主将の背番号は 10 番とする。

5. 試合球

検定ゴム 3 号球(ケンコウ)とする。

6. 競技方法

- (1) 対戦方法はトーナメント方式とする。
- (2) 試合は、7 イニング制と時間制を併用し、どちらか先に達した時点で試合終了とする。7 回を終了して同点の場合は 8 回よりタイブレーカーを適用する。
 - ① 90分を越えて新しいイニングに入らないものとする。
 - ② 7 イニングまで達した場合は、規定時間に達していても終了とする。
 - ③ 5 回以後 7 点差の場合はコールドゲームとする。但し、決勝戦を除く。
 - ④ 決勝戦は 7 回とする。同点の場合は 8 回よりタイブレーカーを適用する。時間制限なし。
 - ⑤ タイブレーカーは継続打順とし、前回の最終打者を 2 塁走者とし、無死 2 塁の状態から 1 イニングを行う。7 回終了または時間が来ても勝敗が決定しない場合、タイブレーカーを行

う。なお、タイブレーカーを2回実施しても勝敗がつかない場合、抽選により勝敗を決定する(決勝戦をのぞく)。また、時間切れが生じたとき同点の場合は次回よりタイブレーカーを適用する。

7. 表彰

- (1) 決勝戦終了後、閉会式において行う。
- (2) 個人賞のうち選考最優秀打者賞は、ベスト3チームの準決勝以降の試合を選考基準対象とし、最高打率によるものとする。

8. 組み合わせ

監督・主将等合同会議において、大会の組合せ抽選を行う。

9. 競技用具

- (1) バット、ヘルメット(JSA)の点検をし、規定以外のもの及び危険と思われる用具は、試合終了まで、競技場本部席で保管する。試合終了後、受け取りにくること。
- (2) 一チームの選手のユニフォームは同色、同衣装で統一された品位あるものであること。また、帽子は同一のものとする。靴は同色のものを使用しなければならない。
- (3) 背番号は監督 30 番・コーチ 31 番 32 番・主将 10 番・選手は1番から 99 番までとする。胸番号も同一とし胸に付けなければならない。
- (4) 攻撃中の打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。
- (5) 守備中の捕手は、スロートガード付きマスク、ヘルメット、レガースを着用しなければならない。また、ボディプロテクターを着用しなければならない。コーチボックスではヘルメットを着用しなければならない。
- (6) 準備投球の時、競技場内のいかなる場所で投球練習する時でも、捕球する者は必ずスロートガード付マスク・捕手用ヘルメットを着用しなければならない。
- (7) 金属製スパイク使用は認めない。また、危険行為をした場合は退場とする
- (8) 投手のジャンピンクスローが行われた場合は、これを不正投球(イリガールピッチ)とみなす。

10. 注意事項

(1) 競技開始まで

- ① 試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合の4回終了までに、試合会場に集合すること。遅れた場合は原則として棄権とみなす。
- ② 打順表は、試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合 5 回終了時まで、打順表(5 枚1組複写)に必要事項を記入し、必ずふりがなをつけて球場本部に提出すること。相手のチーム打順表は審判・記録員の照合 確認のうえ審判員より受けとる。
- ③ 攻守順の決定は、打順表提出時、審判員立会いのもと「コイン」のトスによって決定する。「コイン」の裏表は先着(打順表持参)チームに優先権を与える。
- ④ 競技者席は組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチに入る人数は要項で定められた者以内とする。
- ⑤ フイールディング
競技場に入ることを許されたメンバーで行うこと。
後攻チームより 5 分間とし、審判員の指示に従うこと。
大会進行上、時間の短縮及び省略することもある

(2) 競技開始

- ① 「集合準備」の指示で自己のベンチ前に一列横隊に立つ。
- ② 「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

(3) 攻守交替、選手交替

- ① すべて駆け足で敏速に交替を行うこと。
- ② 選手の交替は、監督が球審にすみやかにその旨、通告すること。

(4) 攻守交替のボール

- ① 特に指示がない場合はピッチャープレートの近くに置く。
- ② 試合終了時は審判員に渡す。

11. 競技場

ダブルベースを使用する。
外野フェンスを設営すること(71メートル)。

12. その他

- (1) 審判員の判定に基づく判定に対して抗議することは許されない。ルール上の疑義については、監督に限りこれを正すことができる。
- (2) 小雨でも決行するが、万一試合を中止、又は開始時刻を変更する場合は大会本部から各チームに連絡する。また、午前中雨天でも、天候の回復状況により試合を開始することもある。
- (3) 第1試合開始前に始球式を行う。
- (4) 実行委員会は大会参加申込締切後、参加チームが 12 チームに満たない場合、すぐ財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局にその旨を伝えること。
- (5) 監督・主将会議はユニフォーム着用を義務とする。

13. 本要項の改正

- ・ 一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会
- ・ 一部改正 2005年2月19日 第8回全国委員会
- ・ 一部改正 2008年2月3日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2009年2月8日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2010年2月7日 第3回本委員会
- ・ 一部改正 2011年2月6日 第3回本委員会